

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (8)自然との共生

(評価担当者)

生活文化部長 佐久間 利夫

基本施策が目指す姿

豊かな自然の恵みが、良好に保たれ、次世代に受け継がれています。

関連する分野別計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	自然公園の利用者数	人	13,717	H27	10,520	8,465				20,000
2	環境林整備面積	ha	1,187	H27	1,382	1,451				1,700
3										
4										
5										

市民アンケート調査

項目	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1 自然環境が豊かである	重要度	1.27	1.19	自然に関する各項目に対する重要度の認識は若干下降してはいるものの、市民の意識は依然として高いものと思われる。また、自然環境に対する満足度は上昇しているものの、市域での開発の進行や森林・農地の荒廃などを懸念する市民の様子が窺える。
	満足度	1.03	1.10	
2 自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度	1.13	0.95	
	満足度	0.17	0.22	
3 森林・里山や農地が保全されている	重要度	1.11	0.99	
	満足度	0.04	0.11	
4 自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度	1.04	0.90	
	満足度	0.27	0.25	
5	重要度			
	満足度			

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	鈴鹿川等源流域の自然環境と歴史的資源を守り継ぐ条例の制定や、産学民官で構成する鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の設立など、自然資源の保全に向けてベースとなる部分を整備することができ、個別評価をAとしている。一方、森林・里山・農地の保全に関しては、環境林の間伐や農地の多面的機能発揮促進事業を継続しているものの、実施面積が前年度より減少している。また、自然とのふれあいの機会の創出でも、里山塾等により自然環境の大切さを理解する人を増やしてはいるものの、イベント開催日の天候不順等もあり指標となる自然公園の利用者数が前年度より大きく減少していることなどから、総合判定をBとした。

反省点・課題

森林の持つ公益的機能を高めるためには、今後も環境林に位置付けられた森林の間伐が必要であるが、森林環境創造事業による環境林の間伐に必要な国や県の補助金が年々減少していることから、計画的に間伐を進めることが困難になっている。また、農業においては、高齢化や担い手不足等により農地の荒廃が進んでいることから、農地の持つ多面的機能の維持・発揮を図る必要がある。一方で、近年、外来生物の繁殖により、在来種の生きる場所が奪われるなど、生態系に影響が及んだり、農業被害や生活被害なども発生している。

今後の展開方針

森林については、森林環境創造事業による環境林の間伐を計画的に進めるため、これからも機会を捉えて国や県に対して予算の確保を要望するとともに、それと並行して市単独の環境林の間伐事業も進めていく。また、農地の保全については、引き続き、農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮と耕作放棄地の発生防止のため、農地や農道、水路などの地域資源を保全する活動への支援を行う。さらに、生物多様性地域戦略の策定に向けて取り組むとともに、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会で具体的な取り組みを進めることなどにより、市民に対して多様な生態系の保全に対する意識の醸成に努める。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		自然資源の保全					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	鈴鹿川等源流域における自然環境等の保全と活用を図り、次世代に継承するため、「鈴鹿川等源流域の自然環境と歴史的資源を守り継ぐ条例」を制定し、施行した。また、施策を計画的に推進するため、産学民官で組織した「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」を設立した。		自然資源の保全に向け、市の責務、市民・事業者の役割を明確にした条例の制定と施行に加え、施策の推進に向けた多様な主体との連携及び協力体制を構築したことで、今後の活動の基盤ができています。			
		順調に進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果
	亀山市鈴鹿川等源流域の自然環境と歴史的資源を守り継ぐ条例の制定					A	A
鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の設立					A	A	

施策の方向		森林・里山・農地の保全					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	森林の持つ公益的機能の向上を図るため、環境林約60haの間伐を行った。また、農業施策では多面的機能発揮促進事業では17団体に支援し451ha、中山間地域等直接支払交付金事業で13団体に支援し88haの農地をそれぞれ保全することができた。		環境林整備計画に基づいた環境林の間伐が進んでいる。農地施策についても地域へ支援制度活用働きかけを行い、地域での事業実施により、農地保全の推進を図ることができている。			
		まずまず進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17030	森林環境創造事業		主	4,317 / 4,258	B	B
	17031	中山間地域等直接支払交付金事業		主	14,658 / 14,632	A	A
	17032	田園環境保全事業		主	3,800 / 3,529	B	B
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業		主	16,402 / 16,400	A	B
	17034	多面的機能発揮促進事業		主	15,311 / 15,211	B	B
	6063	森林病虫害防除事業		標	232 / 230	A	A
6019	市単土地改良事業		標	40,000 / 37,990	B	B	
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		自然とのふれあいの機会の創出					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	亀山里山公園や亀山森林公園等を活用したイベント等の開催や里山塾を開講し、市民が身近に自然と触れ合う機会を提供した。		自然公園の利用者数は目標値を下回っているものの、自然公園を活用したイベント等の実施により、自然環境に対する理解やその大切さを学ぶ機会を創出し、市民の環境保全意識の高揚に繋げることができている。			
		まずまず進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	4067	里山公園管理費		標	6,257 / 5,716	A	B
	6055	森林公園管理費		標	3,644 / 3,526	A	B
6029	一般事業(水産業費)		標	460 / 460	A	A	
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向 多様な生態系の確保							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B まずは進んでいる	活動	市防除計画に基づき、特定外来生物(アライグマ等)の駆除に取り組む市民に捕獲檻を貸し出すとともに、外来魚駆除に取り組む市民団体に資材(石灰)を提供するなど活動の支援を行った。 また、市広報を活用し、特定外来生物の駆除に関する周知を行った。		評価	3つの市民団体による在来種保護を目的とした活動が評価されて日本自然保護大賞・教育普及部門で大賞を受賞された。市もこれらの団体と連携して活動することで、特定外来生物の駆除や多様な生態系の保全に対する市民意識の向上に寄与することができている。		
		関連事業	番号		事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]
		6009-2	有害鳥獣対策事業(駆除)	標	7,036 / 6,914	A	A
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果